

**肉用「天草大王」の全期間無薬飼料による飼育**

高品質肉用鶏「天草大王」に対して、徹底的な消毒とコクシジウムワクチンを加味したワクチン接種による予防衛生を行うことによって、餌付けから全期間無薬飼料で飼育しても生産性が低下することはない。

農業研究センター 畜産研究所 中小家畜研究室 (担当者: 松崎 正治)

**研究のねらい**

肉用「天草大王」の飼育マニュアルでは、70日齢までは抗菌性飼料添加物の入ったブロイラー前期および後期飼料を給与し、その後、出荷まではブロイラー仕上げ飼料(無薬)を給与することとしているが、消費者の安全・安心嗜好の高まりに対して、餌付けから全期間、抗菌性飼料添加物に頼らない飼育技術の確立が望まれる。

そこで、飼料から抗菌性飼料添加物を除く代わりに徹底的な消毒とワクチン接種による予防衛生などの衛生対策面の強化により、生産性の低下を招くことのない飼育技術を確立する。とくに、平飼いの無薬飼育で問題となるコクシジウム病に対しては、最近、普及してきた有効なワクチンを使用する。

**研究の成果**

1. 衛生対策面の強化としては、鶏舎消毒(表1)とコクシジウムワクチンを加味したワクチン接種(表2)および、その他の衛生対策(表3)を行う。飼料は4週齢まで抗菌性飼料添加物を含まないブロイラー前期飼料を、その後、出荷まではブロイラー仕上げ飼料(無薬)を給与する。
2. 慣用飼育マニュアルに従った飼料を給与する対照区に比べて、餌付けより全期間、無薬飼料を給与する無薬区の飼育成績は、全く差がみられない。(表4・表5)。
3. 1羽当たりの飼料費では、無薬区と対照区による差はないが、無薬区では、コクシジウムワクチン代(1羽当たり5円)の経費が必要である。(表5)。

**普及上の留意点**

1. 慣用に比べて、衛生強化対策経費を必要とする。
2. 生産現場で鶏舎が密集している場合は、風に乗ったゴミとともに進入する病原菌は防ぎようがないので、農場ごとのオールインオールアウトとの組み合わせで実施する。

表1. 鶏舎消毒の方法

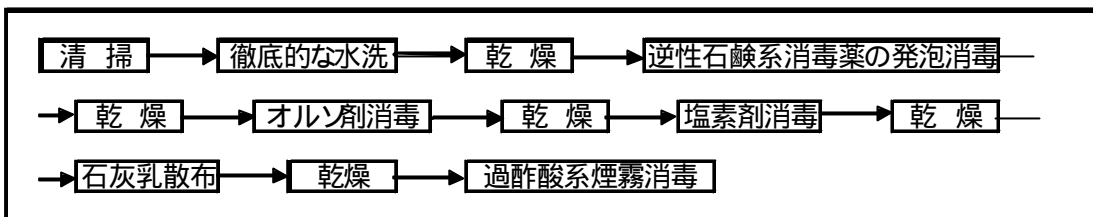


表2. ワクチン接種

マレック病 (MD) ワクチン	: 0日齢
鶏痘 (FP) ワクチン	: 21, 60日齢
ニューカッスル病 (ND) と伝染性気管支炎 (IB) の混合ワクチン	: 5, 23日齢
伝染性ファブリキウス嚢症 (IBD) ワクチン	: 12, 23日齢
コクシジウムワクチン	: 13日齢
(注) コクシジウムワクチンは弱毒3価 (アイミア・テネ、アイミア・アセンブリーナ、アイミア・マキシマ) 生ワクチン	

表3. その他の衛生対策

- 1) 鶏舎周囲の消毒  
生石灰を1㎡当たり1kg散布
- 2) 野鳥、ネズミ対策  
防鳥ネットによる野鳥の進入防止、殺鼠剤による定期的なネズミ駆除を実施
- 3) 日常の管理  
管理者以外の鶏舎出入り禁止  
衣服の着換え・・・鶏舎に入るときの着換え、帽子・マスク・手袋着用  
長靴の履き替え・・・鶏舎の入り口で長靴を履き替え、踏み込み消毒槽で消毒  
持ち込む資材の消毒・・・飼料 (紙袋詰め)、コンテナ、その他全て  
鶏舎消毒・・・毎日の管理後、鶏舎内の通路及び金網、サービスエリアを消毒

表4. 飼料

無薬区	
0 ~ 4週齢 : プロイラー前期飼料 (無薬)	CP24% - ME3,050Kcal / kg
5 ~ 15週齢 : プロイラー仕上げ飼料 (無薬)	CP18% - ME3,170Kcal / kg
対照区	
0 ~ 4週齢 : プロイラー前期飼料 (抗菌性飼料加物添加)	CP21.5% - ME3,040Kcal / kg
5 ~ 10週齢 : プロイラー後期飼料 (抗菌性飼料添加物添加)	CP18% - ME3,170Kcal / kg
11 ~ 15週齢 : プロイラー仕上げ飼料 (無薬)	CP18% - ME3,170Kcal / kg
注) CP : 粗蛋白質、ME : 代謝エネルギー	

表5. 出荷適齢期 (15週齢) の成績

項目	育成率	体 重			飼料要求率	1羽当たり 飼料摂取量	1羽当たり 飼料費	コクシウムワ クチン代
		雄	雌	平均				
	%	g	g	g		g	円	円 / 羽
無薬区	98.0	4,198	2,991	3,595	3.03	10,827	511.6	5
対照区	95.3	4,132	2,916	3,524	3.01	10,671	512.0	0